人間と自然 －自然を守る－

コラム

私たち日本人は、野山に咲く花を愛し、それを生活の中に取り込んでいました。また、軽やかに舞うチョウに春を喜び、木で鳴くセミの声に暑さを忍(しの)び、青い空に飛ぶ赤トンボに秋の訪れを感じていました。そして、暗闇で明滅する淡いホタルの光に寄せる思いには深いものを持っていますし、野山を飛ぶ鳥に生きる喜びや未来の夢をたくし、地域に育つ大木に不思議な力を感じみんなで大切にしてきました。このように、自然と一緒になって生き、嫌な生き物も含めて「なかま」として自然の命を大切にしてきたのが日本人なのです。

しかし、今や人々の暮らしや文化が変わり、環境の汚染やコンクリート化が進み、周りから生き物達の姿が消えつつあり、自然の中で舞うチョウやトンボやホタルを見ることはだんだん夢のようになってしまいました。小田原の豊かな自然の姿は地域にすむ長老の話の中でしか感じることができなくなってしまっているように思います。

近年、このまま自然環境を変え続けると人間そのものが地球上で生き続けられなくなるのではないかということが分かり、あちらこちらで自然や緑を守るいろいろな取り組みが行われるようになってきました。

小田原市でもビオトープ（生き物のいる場所）を造ったり、生き物が住める用水路の改修や自然公園を建設したりしています。また、地域の方々が河川の清掃活動して下さっていますし、落ち葉や生ゴミの再利用などが行われています。

色々な生き物がすんでいる自然豊かなきれいな場所は、私たち人間にとっても大切なところなのです。

おだわら諏訪の原公園